（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	小倉暢之	所　属	工学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部及び大学院における建築計画学関連諸科目を担当し、学習意欲の向上を図る。演習では積極的にTAを活用し、きめ細かな指導体制を形成し、学生の意見聴取及び学習相談を行う。	0.25	学部及び大学院における学生授業評価ではTAの積極的活用により良好な評価を得る事ができた。また、ゼミでは学部生7名、院生前期課程2名、後期課程2名の研究指導を行った。
研究	0.30	大学院生と共に研究した成果を国内外の論文に投稿する。また、国際交流協定締結校との研究交流を推進する。	0.25	大学院博士後期課程院生と共に国際ジャーナルに投稿し、掲載された。また、国際交流協定締結校との研究交流推進では、キングモンクット工科大学のピヤラット教授と都市住宅に関する調査研究を行った。
社会貢献	0.10	日本建築学会沖縄支所評議員、那覇市建築審査会会長等の各種委員として県内建築関係者及び市民に活動を通して社会貢献する。	0.10	日本建築学会沖縄支所評議員、那覇市建築審査会会長の他、建築士会沖縄支部常任理事として各種公共建築設計競技の審査員長として広く社会に貢献した。
管理運営	0.20	副学部長の他に各種学内委員を務め学内の管理運営に寄与する。	0.30	副学部長として、国際交流、大学院教育及び研究推進を担当し、学部長を補佐した。また、学内の研究推進戦略委員会では学内研究プロジェクトの審査等、多様な業務を担当した。
進路指導	0.10	2年次学年担当、及び研究室学生院生の指導教員として進路に関する相談指導を行う。	0.10	学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に対応し、就職希望学生の就職を決めた。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	堤　純一郎	所　属	工学部環境建設工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.22	学部課程と大学院博士前期課程の授業はシラバスを詳細に入力し、それに従って授業を行う。 大学院博士前期課程2年生4人の修了と卒論生6人の卒業を確実に成し遂げる。大学院博士前期課程1年生の2人には適切な研究課題を与える。	0.20	前期シラバスは完了した。後期のシラバス入力は少し遅れたが、ほぼ完了。大学院は英語で入力。授業計画は約90%はシラバス通り。修士修了学生と卒論生の指導はほぼ完了。その他の大学院生への指導はやや不足分もあるが、実験等への参加機会は十分に与えた。
研究	0.22	ハワイ一沖縄新エネルギー協力事業の具体的な研究課題の設定と、ハワイとの具体的な協力関係を構築する。 学術論文を1報以上仕上げる。	0.22	エネルギー研究ではあるが、ハワイとの新エネではなく宮古島市のエコアイランド対応が中心となってしまった。当初の予定とは若干異なるが、内容の濃い研究を行い、しっかりした結果を得ることができた。ハワイとの関係についても、シンポジウムの参加やセミナーのオーガナイザー等を行った。学術論文は現在執筆中。
社会貢献	0.23	国、県、市町村等の検討会、審議会等の委員を滞りなく勤め、その責務を果たす。 地域の企業等を対象に産学官連携や知財についての広報を行う。	0.25	地域への貢献として、中城村との包括協定を進め、研究推進組織を固めた。国や地方自治体への貢献は、予定より多くの審議会の委員等を務め、十分にその責務を果たしている。ただ、当初予定していより多くの時間を割かなければならなくなり、その時間の調整にやや手間取った。
管理運営	0.25	工学部評議員及び副学部長として、工学部教育委員会委員長として、産学官連携推進機構副機構長として、エコロジカルキャンパス推進委員会副委員長として、利益相反委員会及び地域貢献委員会のワーキング主査として、発明審査委員会の委員として、求められる責務を全うする。	0.28	教育研究評議会、全学教育委員会の委員をはじめとして、地域貢献委員会副委員長、利益相反マネジメント委員会、同WG主査、発明審査委員会、エコキャンパス推進委員会、同企画部会主査等の委員として、また、産学官連携推進機構副機構長として多数の委員会や実務処理及び企画提案を行った。特に利益相反の判定やエコアクション21では、学生委員会の設置等、全学の中心的な活動を行った。
進路指導	0.08	6人の卒論学生の進路を未定者を出さずに決定する。特に、昨年度1人（それも入学辞退）であった進学者を増加させる。博士前期課程の修了者3人の進路をできるだけ希望に添って決定する。	0.05	修士終了予定者には希望に沿って就職先を決定することができた。卒論生はほぼ進路指導することができたが、一部、十分なコミュニケーションができなかった学生もいる。また、来年度の就職担当として、すでに現3年生や大学院1年生を対象に進路指導を開始している。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	清水肇	所　属	工学部環境建設工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	専門教育、共通教育の授業を、学生との意見交換方法などを改善し効果的に実施する。	0.30	想定していた目標を達成した。 「住空間計画」などの授業で学生の提出物の評価を効果的に学生にフィードバックする方法を改善し、学生の提出物の水準を確保することができた。
研究	0.25	生活空間関連研究を進め、学会および学会誌にて発表を行う。	0.25	想定していた目標を達成した。 建築学会において「学童保育の生活空間における行為の自律性と多様性について」の発表を行った。沖縄県の2013年度以降の学童保育施設の整備計画に関連する調査を受注し、新しい研究を展開した。
社会貢献	0.15	那覇市景観審議会他の自治体委員の職を通じて地域のまちづくりに貢献する。	0.15	那覇市景観審議会、糸満市風景づくり計画策定委員会、八重瀬町景観計画委員会、読谷村景観委員会において委員（座長）をつとめた。他にも多数の自治体設置の委員会等の委員をつとめた。
管理運営	0.20	建築コース主任、工学部将来計画委員、学士教育運営委員として関連業務に貢献する。	0.20	建築コース主任として、建築士受験資格に関わる申請業務をはじめ、教育の運営と改善に関わる業務を多数つとめ、学科の管理運営、全学レベルの教育運営に寄与した。
進路指導	0.10	環境建設工学科建築コース4年次指導教員として、進路指導を効果的に実施する。	0.10	4年次指導教員として、年間を通じた進路指導を丁寧に行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	渡嘉敷　健	所　属	環境建設工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	学部の授業、建築設備計画において、昨年度も実施して来た建築設備等の施設見学を行い授業の内容を具体化して学生の理解力を高めたい。建築環境工学演習においても既設のホールの残響時間の測定実験を行いこれまでに得られた研究成果を生かした具体的な実験実習を行っていきたい。大学院の環境騒音特論では研究の環境騒音の調査を授業に取り入れたい。	0.25	学部授業の建築設備計画の一環として3つの施設見学を行った。1つ目は、人文社会総合研究棟の建築設備全般について職員の方に説明をお願いして学生からの質問にも答えて頂いた。二つ目は、沖縄電力牧港火力発電所の施設見学で発電の系統の説明をして頂き、聴診棒でモーターの異常音を検知することを体験した。三つ目は北谷浄水場と海水淡水化センター見学を行った。後日レポートにて感想を述べさせた。学生は実体験が出来たことで理解を深めた。音響実験では新しく完成した残響室無響室ないで残響時間の長さを体感した。大学院の環境騒音特論では大学構内の環境騒音の調査を授業に取り入れた。
研究	0.30	音響材料開発として産学連携としての技術提供を行い社会貢献を行いたい、さらに外部資金の獲得につなげられるように努力したい。現在行っている航空機騒音の主観評価調査を進めさらにデータ収集を行い研究を発展させて行きたい。国際会議、インターノイズに論文を提出し、発表を行いたい。学会活動として日本音響学科九州支部評議員として貢献したい。	0.30	音響材料として吸音材料メーカーと集合住宅施工会社との産学連携を行うことをスタートさせた。吸音建材を提供してもらい新しく完成した残響室無響室でデータの測定を行いその結果を沖縄の産業まつりに大学の研究紹介で展示説明を行った。次年度はさらに研究を発展させたい。米軍基地から発生する騒音等の調査結果をH23年8月、国際会議のインターノイズ・ニューヨークにて発表を行った。学会活動として日本音響学科九州支部評議員としてメール会議を行った。
社会貢献	0.25	研究調査で行っている学校施設の音環境調査が新聞報道に公表された事を受けて実施される音響調査に専門家としての技術支援を行いたい。学生実験で行っている既設のホールの残響時間測定データを提供して音響改善のための技術支援を行いたい。学校法人智晴学園専門学校琉球リハビリテーション学院及びおもと会沖縄リハビリテーション福祉学院における非常勤講師として教育支援を行う。	0.25	学校施設の音環境調査が新聞報道された事を受けて各自治体からの音響調査に専門家としての技術支援を行った。米軍の新型ヘリコプターの低周波音問題で各地で学習会を5回行った。学生実験で行っている既設のホールの残響時間測定データを提供して音響改善のための技術支援を行った。学校法人智晴学園専門学校琉球リハビリテーション学院及びおもと会沖縄リハビリテーション福祉学院における非常勤講師として教育支援を行った。那覇市の文化振興専門委員として新市民会館の九州地区調査に同行した。
管理運営	0.15	工学部と沖縄工業高専との研究を推進する委員会活動を昨年度行い研究交流を実施した、さらに今年度も継続して研究交流に貢献したい。日韓留学生事業の昨年度委員としてソウルに行き琉球大学のPR活動を行った経験を今年度の活動に生かせるように努力したい。建築コースでのJABEE取得に向けての活動に協力して行きたい。	0.15	工学部と沖縄工業高等専門学校との研究を推進する委員会活動が2年目を向かえ、今回も私の研究室の学生7名も研究交流会に参加した。日韓留学生事業も委員2年目で会議に参加して発言を行った。岐阜工業高等専門学校の学校訪問では新しく完成した残響室無響室内で実験を体験してもらった。建築コースでのJABEE取得に向けての活動に建築のコース会議で議論している状況である。今後具体化していく中で協力して行きたい。
進路指導	0.05	これまでの就職担当教員の経験を活かし、また授業等では施設見学を通して得られる経験を学生の就職支援に役立てて行けるように取り組みたい。学科同窓会の協力を得て就職説明会を開催できるように努力したい。例年実施している高校訪問の業務をサポートしたい。	0.05	学部学生及び大学院生の就職活動のことも考え、講義の中で、専門性を生かした就職状況等のビデを等の説明を行い就職への啓発を行った。学生からの評判も良く、学生達の就職活動に生かしてもらいたいと考えている。学校訪問では宜野座高校に出向いて工学部の紹介を行った。簡単な専門の講義を行い大学の講義を体験してもらった。学科同窓会の起業者の体験セミナーのDVDを就職説明に活用した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	入江　徹	所　属	工学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	建築計画系科目、建築設計製図科目を担当し、学生に国内外の建築に関する最新情報を提供しつつ講義を行う。	0.40	建築計画系科目、建築設計製図の中で、学生に国内外の建築に関する最新情報を提供しつつ講義を行った。その成果発表として、「設計製図課題合同発表会」を開催した。
研究	0.30	建築における最先端デザインの探求を実験的に行っていく。	0.30	多くの現代建築の視察を行い、建築における最先端デザインの探求に務めた。
社会貢献	0.15	「全国大学・高専卒業設計展示会」／「建築九州賞」の展示をすることで、学外からも多くの見学者を学内に招き社会貢献を行う。	0.10	「全国大学・高専卒業設計展示会」の展示を行い、多くの見学者を招いた。（「建築九州賞」は、本年度は展示要請がなかった。）
管理運営	0.20	予算配分委員として業務に従事する。また、設計製図室の環境管理に努める。	0.10	予算配分委員としての業務は現状特にないが、教育委員として業務に従事した。また、建築設計製図室において、課題ごとの清掃を指示するなど環境管理に努めた。
進路指導	0.05	学生が卒業後の進路について検討しやすいよう情報を提供し、相談にのったり指導を行う。	0.10	学生の卒業後の進路相談に対し、情報の提供や準備しておくことなどについて指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	安藤徹哉	所　属	工学部環境建設工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.00	・部局の目標に適合した教育目標の設定 ・授業評価等の指摘、自らの発意に基づく授業の改善 ・研究業績の授業への反映	0.40	・・・目標に応じた授業を行うことができた。
研究	0.00	・学会誌への投稿、発表 ・著書の出版準備(ハワイ大学出版会)	0.30	・・・学会論文2編を発表することができた。
社会貢献	0.00	・学外の審議会、委員会等への参画	0.10	・・・各種委員会において積極的に発言した。
管理運営	0.00	・全学的委員会での具体的貢献	0.10	・・・施設環境および留学生関連の委員会において積極的に発言した。
進路指導	0.00	・進学指導、就職支援のための具体的取り組み	0.10	・・・積極的に学生の指導にあたった。
	0.00		0.00	
計	0.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	仲松　亮	所　属	工学部環境建設工学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	講義では基礎的部分の理解が疎かにならないよう講義内容を工夫する。実習や演習では学生が講義で学んだことをより深く理解出来るように、内容を計画して実施する。オフィスアワーを積極的に利用してもらい、学生の学習を助ける。	0.35	前期に3講義、後期に1講義を担当した。前年度から担当している2講義については、前年度の経験をもとに講義内容を改善することができた。今年度から担当する2講義の進め方にはいくつか問題点が認められたため、来年度の向け、改善策を検討した。環境関連の学習を目的として、新エネルギー関連の実証実験施設、エコハウス、在来工法住宅等のエネルギーや環境関連施設を学生に見学させた。
研究	0.40	これまでに行ってきた研究開発をもとにしたテーマについて研究を行う。専門知識の向上に努める。	0.40	住宅のエネルギー消費量と気象および建物性能の関係、建物の遮熱性能に関わる屋上植栽や遮熱塗料、太陽光発電パネル等の研究および当該専門知識の向上に務めた。また現在、沖縄の海峡部の潮流を利用した潮流発電に関する実証実験を行うために、その予備調査および関係者との調整を行っている。
社会貢献	0.15	環境・廃棄物関連の特定非営利団体に協力する。県内自治体の環境行政に専門的な立場から協力する。	0.10	環境関連NPOのメンバーとして宮古島市で行われた「観光−環境を考えるシンポジウム」、名護で行われた「県民環境フェア in なご」の開催に協力。また、名護の最終処分場候補地の住民に対して、中立的立場からの情報提供に協力した。
管理運営	0.10	各種委員会の委員を担当することで管理運営に参加・協力する。環境建設工学科の公式HPの手直しを行う。	0.10	今年度は学長候補者意向調査および学部長選挙があり、選挙委員として選挙管理に協力した。またレク係として工学部新年会の開催に助力。大学センター試験では離島試験場にて試験監督を行った。環境建設工学科の公式HPの手直しについては、教員一覧の修正を行ったが、全体の見直しまで至らなかった。
進路指導	0.05	円滑な進路指導が行われるように指導教員のサポート、学生に関連情報の提供を行う。	0.05	担当教員のサポートを行い、進路について相談しやすい雰囲気作りに務めた。また、学生に対して就職説明会の開催日時等の周知、就職活動の進捗確認などを行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	神谷　大介	所　属	工学部　環境建設工学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	3.00	これまでから担当している科目については、講義内容を更新する。今年度から担当する科目については、十分な準備を行って授業を行う。	3.00	講義の改善を行った。
研究	3.00	昨年度までの研究成果を査読付き論文として投稿する。	3.00	査読付き論文として掲載された。
社会貢献	2.00	各種委員会等への参加による研究成果の還元、および学校等における防災教育・危機管理について協力を行う。	2.00	委員会及び社会貢献を行った。
管理運営	1.00	交通関係の委員会およびJABEEに関する検討を行う。	1.00	委員会等の活動を行った。
進路指導	1.00	１年次指導教員として修学指導を行うと共に、研究室の学生の進路指	1.00	指導教員としての指導を行った。
	0.00		0.00	
計	10.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	10.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	小野尋子	所　属	工学部環境建設工学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	池田教授の退官に伴い引き継いだ大学院授業2科目、特別コースの授業1科目、学部生授業1科目と天野教授がされていた確率及び統計の講義内容の確立と充実に努める。	0.20	清水先生、堤先生に相談に乗っていただきながら、前年度より落ち着いて授業を進められるようになりました。
研究	0.30	今年度も科研が新規採択されたことから、研究を推進する。また、今年度は都市計画学会の九州支部の記念事業が沖縄で予定されており、それを主催する立場にある。自分自身学びながら、地域での研究、地元自治体や市民の考えを学術的に広く議論する場をつくり、研究の実績を社会の中でさらに昇華させる。	0.40	基地跡地利用について、市民向けのシンポジウムを開催（9月）し、120名の参加者がありました。また、分析したデータをもとに、沖縄県が主催する「大規模基地返還跡地利用計画コンペ」にて「優秀賞」を納めました（2月）。国内から全79作品、大成建設、日本設計、ｵﾘｴﾝﾀﾙｺﾝｻﾙﾀﾝﾂ等多くのゼネコン・設計事務所が参加する一般コンペでの受賞は大きな励みになりましたした。
社会貢献	0.20	科研で採択された研究テーマが普天間基地の跡地利用に関するものであることから、研究テーマの推進の中で、各種学識委員の活動、及びフォーラムなどの開催を行い、研究活動で知り得た知見を広く共有する仕組みを作る。	0.20	基地跡地利用の提案について、地権者向け懇談会、市民向け懇談会にて、研究の成果を報告し、地域と一緒に都市づくりをしてく関係を築くことができました。
管理運営	0.10	工学部の自己評価委員および全学の男女共同参画委員の運営業務活動に務める。	0.10	自己評価委員は、委員を決める学科会議の会の流れで引き受けましたが、難しくそして職責の重い委員でありました。自分に出来ることを探しながら、関わりました。男女共同参画委員も同様に職責を果たせるよう努めました。
進路指導	0.10	4年次指導教員として、就職情報の広報を担う。また。個々の学生との連絡を密にし、事務とも連携をして就職活動の円滑な滑り出しを支援する。	0.10	工学部棟から離れた場所に研究室がありますので、学生達が大学に来た求人票を円滑に見ることができるように、すべての会社の募集要項をパスワード付きのインターネット上に掲載し、学生たちの情報収集の利便化に努めました。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	有住　康則	所　属	工学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部科目：「構造力学I及び演習」、「線形代数学A」，［橋設計論」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。演習等科目では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用する。各科目について授業改善資料Aを作成し、JABEE委員会で検討し，授業改善に努める。FD活動に積極的に参加する。大学院の講義を担当し，理工学研究科前期学生1名の研究指導を行う。	0.30	学部科目：「構造力学I及び演習」、［橋設計論」，「線形代数学A」及び「卒業研究」等を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行った。講義内容等については，授業改善資料Aを作成し、JABEE委員会で検討を行った。演習等科目では大学院前期学生をTAとして採用し、教育補助に活用した。学部及び学科が開催したFD活動に積極的に参加した。理工学研究科前期学生1名の研究指導を行った。
研究	0.30	科学研究補助金基盤研究(B)「重度の腐食損傷を受けた鋼橋の耐荷力性能評価と機能回復に関する研究」を中心に研究開発を進め、その成果は土木学会論文集，鋼構造工学論文集等に投稿する。委員会活動では土木学会「鋼構造委員会」及び「鋼構造委員会アルミニウム構造小委員会」に委員として積極的に参加する。	0.30	科学研究補助金基盤研究(B)「重度の腐食損傷を受けた鋼橋の耐荷力性能評価と機能回復に関する研究」（150万円）、（社）日本鉄鋼連盟」「鋼構造研究・教育助成事業」（重点テーマ研究、330万円）中心に研究開発を進めた。国内論文集に3編採択された。国際会議1編（共著者），土木学会年次講演会に論文を10編（共著者）投稿し発表を行った。土木学会「鋼構造委員会」，「鋼構造委員会アルミニウム構造小委員会」に委員として参加した。
社会貢献	0.10	国土交通省「社会資本整備審議会専門委員」，沖縄総合事務局「事業評価監視委員会」，「総合評価審査委員会」、沖縄県「公共工事入札契約適正化委員会」等に委員（委員長を含む）として参加し、専門的立場で意見を述べ社会に貢献する。	0.10	国土交通省「社会資本整備審議会道路分科会沖縄地方小委員」，那覇市「那覇市都市計画審議会」，「那覇市上下水道事業審議会」に委員長として、また，沖縄総合事務局「総合評価審査委員会」、沖縄県「公共工事入札契約適正化委員会」等に委員として参加し、専門的立場で意見を述べ社会貢献活動を行った。
管理運営	0.20	生産エネルギー工学専攻主任を務め，生産エネルギー工学専攻の円滑な運営に努める。また，環境建設工学科土木コースJABEEプログラム責任者として教育改善に努める。更に，工学部将来計画委員会等において委員として活動を積極的に進める。	0.20	生産エネルギー工学専攻主任を務め，入試業務，博士論文審査教務等の生産エネルギー工学専攻の業務が円滑に行えるよう運営に努めた。環境建設工学科土木コースJABEEプログラム責任者として，本JABEEプログラムの改善に努め，教育プログラム委員会等を主管した（10月まで）。工学部の委員会において委員として活動を積極的に行った.
進路指導	0.10	土木コース3年次指導教員として学生の修学指導を行い，学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に積極的に取り組む。	0.10	土木コース3年次指導教員として学生の修学指導に取り組んだ。また、学生の進学指導、就職支援及び求人希望会社の対応等に積極的に取り組んだ。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	山田義智	所　属	工学部・環境建設工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部で「建築材料」,「環境材料学」,「線形代数学」,「建築構造力学I」の必修科目や,「数理情報処理」の選択科目を学生の理解が進むよう講義する。大学院では「建設材料学特論」で材料学の重要性を理解させる。卒論・修論では，建築材料学の研究の楽しさと建築において果たす役割を教える。修論生には学会発表や査読論文投稿を行うよう指導する。	0.30	学部講義アンケート結果は良好であった。大学院講義は，アルカリ骨材反応が起きた現場見学などを行い，座学と実務との関連を教育できた。また，卒論・修論の学生にも目標通りの教育ができたと思う。大学院生4名全員に海外・国内の学会等での発表（一部台風で渡航できず）指導ができた。また，大学院2名の学生は筆頭で査読付き論文掲載が決定した。
研究	0.30	継続している科研「基盤C」の最終年度の取り纏めを着実におこなう。 また，塩ビサイディング材のRC構造物の保護効果やフレッシュコンクリートのレオロジーに関しても着実に研究を進捗させる。これらの研究成果として査読付論文を投稿するほか，外部資金の獲得を目指す。	0.35	科研テーマについては，学会に梗概論文を提出中である。塩ビサイディングのRC構造物保護効果に関しても，学会に梗概論文を提出中である。また，フレッシュコンクリートのレオロジーに関しては査読付き論文3編が掲載決定され，現在2編を査読付き論文として投稿中である。その他，海外および国内で口頭発表を行った。なお，外部資金については研究関連で企業より奨学金を得た。
社会貢献	0.15	建築学会材料施工本委員会（建築学会では他委員3件あり）等の学会活動や，擁壁製造委員，沖縄県建築審査会会長，その他の県内の各委員としてその責務をはたす。	0.10	建築学会材料施工本委員会（建築学会では他委員3件あり）等の学会活動や，全国宅地擁壁技術協会調査委員，沖縄県建築審査会会長，沖縄県生コンクリート品質管理監査会委員，その他の県内の各種委員会に参加して活動を行い，その責務を果たした。
管理運営	0.15	全学および工学部の各種委員を務める。また，教授会や学科会議・コース会議には，積極的に出席して組織運営の一助とする。	0.10	全学の入学者選抜方法等検討委員会，工学部の社会連携委員会，研究推進委員会には，出張等で不在でない限り積極的に出席した。教授会や学科会議・コース会議も同様に，不在でない限り積極的に参加した。
進路指導	0.10	研究室配属の学部学生(8名）および大学院生（4名）の進路について， 十分に把握・指導して有意義な学生生活を送れるよう助力する。 また，建築コース1年次の指導教員としての責務を果たす。	0.15	研究室所属学生の進路について，ゼミの後などに相談し指導にあたった。 また，建築コース1年次の指導教員として，各種相談や指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

氏名	伊良波繁雄	所　属	環境建設工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.00	担当科目の講義をJABEEの認定に耐えるように実施する	0.40	本年度も担当科目の講義をJABEEの認定に耐えるように実施した
研究	0.00	本年度は4年次の学生の卒業研究と関係しているが、数値解析等の研究を重点的に行う	0.20	本年度も数値解析等の研究を重点的に行った
社会貢献	0.00	学外の委員会に参加する機会があるときは、積極的に活動する	0.15	本年度も、学外の委員会に参加する機会があり、積極的に活動した
管理運営	0.00	島嶼防災研究センター長として活動する	0.15	島嶼防災研究センター長として運営、シンポジウムを行った
進路指導	0.00	去年は4年次学生指導教員として、学生の進学、就職の相談を行ったが、今年はこの時の経験を生かし、出来るだけ学生の進路指導については相談に対応する。	0.10	今年は、出来るだけ学生の進路指導について対応した。
	0.00		0.00	
計	0.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	富山　潤	所　属	工学部・環境建設工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.20	・土木コースの目標に照らした教育目標の設定 ・土木コースの定める授業改善マニュアルに基づく授業改善を行う. ・学生からの意見を積極的に聴衆する. ・教育補助者の有効活用，その資質の向上，FDへの参加 ・大学院の講義において機械学会の認定CAE技能講習会の認定を受ける	0.20	・土木コースの目標に照らした教育目標に応じた講義や授業改善マニュアルに従った改善を行った. ・授業評価アンケート等で学生からの意見を積極的に聴取した. ・TAの利用，FDへの積極的な参加を行った. ・大学院の講義において機械学会の認定CAE技能講習会の認定を受け，講義を実施した.
研究	0.30	・査読付き論文の投稿，学会での研究発表を行う. ・科研：基盤研究（C）へ取組む. ・所属部局以外との共同研究を行う. ・外部資金の獲得を目指す.	0.30	・A論文3編が採択された．その他発表論文を数編投稿した. ・科研費：基盤研究（C)が採択され，現在研究に取り組んでいる. ・前年度獲得した競争的資金2件の研究を実施した．また，奨学寄付金5件獲得した.
社会貢献	0.20	・学協会の委員会活動を積極的に行う. ・学協会以外の学外の審議会，委員会等活動を積極的に行う.	0.20	・土木学会2委員，日本コンクリート工学会2委員に参画している．そのうち1委員はWGの主査を務めている. ・市町村の橋梁長寿命化修繕計画策定（3件），沖縄県離島架橋100年耐久性検証プロジェクト，土木学会西部支部沖縄地区幹事，土木学会西部支部沖縄会幹事を務めている.　・土木学会西部支部沖縄会主催の橋梁長寿命化技術に関する技術研究交流会（コンクリート橋梁の長寿命化関連）を開催した．また，ASR講習会を開催した.
管理運営	0.20	・工学部社会連携委員・学科入試委員を務める. ・学科土木コース教育プログラム点検WGを務める. ・全学委員（総合情報処理センター運営委員会）を務める.	0.20	・工学部社会連携委員会を務めた．学科入試委員は3月で任期満了となった. ・学科土木お-す教育委員プログラム点検WGから実施WGに異動となった.
進路指導	0.10	・オフィスアワーによる学生支援を行う. ・卒論生，修士学生の指導を十分行う.	0.10	・卒業研究指導や修士論文の指導を行った. ・オフィスアワーやその他学生支援を行った.
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	下里　哲弘	所　属	工学部環境建設工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	・必修科目「基礎力学」、「鋼構造工学」、「構造力学Ⅱ演習」、選択必修科目「設計演習Ⅰ」を担当し、JABEEおよびURGCC方針に準じて、教育水準を満たす授業を行う。 ・学生の授業評価アンケート、授業改善報告書の結果を活用した授業を行う。	0.30	・学生の授業評価アンケート、授業改善報告書の結果を活用し、必修科目「基礎力学」、「鋼構造工学」、「構造力学Ⅱ演習」、選択必修科目「設計演習Ⅰ」を担当し、JABEEおよびURGCC方針に準じて、教育水準を満たす授業を行った。　・エンジニアリングデザイン教育として、新たにシビルエンジニアリングデザインを担当し、講義を行った。
研究	0.30	・土木学会、日本鋼構造協会等への査読論文投稿を行う。 ・学会活動としての地域に貢献する研究を積極的に行う。 ・外部資金を獲得し、社会で活用できる技術の研究を行う。	0.30	・土木学会論文集へ2編投稿、日本鋼構造論文集へ１編投稿した。 ・国際会議へ1編投稿した。 ・土木学会西部支部沖縄会主催の技術研究発表会を企画し、実施した。 ・外部資金（７件）獲得し、社会で活用できる技術の研究を推進した。
社会貢献	0.15	・社会貢献として土木学会等の活動へ積極的に参画する。 ・社会および地域貢献として沖縄総合事務局、沖縄県などの委員会へ積極的に参画する。	0.15	・社会貢献として土木学会等の活動へ積極的に参画した。 ・社会および地域貢献として沖縄総合事務局、沖縄県などの委員会へ積極的に参画した。また、道路防災ドクターとして助言を行った。
管理運営	0.15	・工学部教育委員の活動を行う。 ・学科会議、土木コース会議等の諸運営活動を行う。	0.15	・工学部教育委員の活動を行った。全学英語統一試験（GTEC)の試験監督員を務めた。 ・学科会議、土木コース会議等の諸運営活動を行った。
進路指導	0.10	・大学院進学希望の学生に対する学習および進路指導を行う。 ・民間への就職希望学生支援を積極的に行う。 ・公務員希望学生の支援のため、試験準備の指導を行う。	0.10	・大学院進学学生(2名）の進路指導を行った。 ・民間への就職希望学生（5名）を指導を積極的を行った。 ・公務員試験合格学生(3名）を支援および指導を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	中田　幸造	所　属	工学部・環境建設工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	できるだけわかりやすく興味を持てるように講義する。講義時間外も随時質問を受け付け，学生の理解が進むように努力する。	0.30	例えば，力学ではTAを活用し，講義時間中に質問をたくさん受けるよう努力し，講義後も遠慮なく質問するよう指導することで理解が進むように努力した。他の講義においても，パワーポイントを使用するなどして視覚的にわかりやすく興味を持てるように講義した。従って，目標は達成できたと考える。
研究	0.50	日本建築学会大会で口頭発表を行う。査読付き論文を投稿する。外部資金の獲得に努める。	0.50	学術研究助成基金助成金の若手研究Bが採択された。コンクリート工学年次大会2012（広島）で研究発表を行った。2012年度日本建築学会大会（名古屋）で研究発表を行った。2013年1月10日には，コンクリート工学年次大会2013（名古屋）へ査読付き論文を投稿した（査読中）。2013年3月に大分で研究発表を行った。よって，目的は達成できたと考える。
社会貢献	0.00	社会貢献のための具体的な活動はないので，ここでの目標は教育および研究目標を達成することとする。	0.00	教育・研究目標を達成すべく精一杯努力し，教育と研究の目標を達成できたと考える。
管理運営	0.10	施設環境委員，交通指導委員としてしっかりと責務を果たせるよう努力する。	0.10	責務を果たした。
進路指導	0.10	1年次指導教員の務めをしっかりと果たす。 研究を行う課程において，勉強意欲や進学意欲が高まるように研究室4年次の質問に分かりやすく答える努力をする。	0.10	指導教員としての務めをしっかりと果たした。研究室4年次の質問には分かりやすく，時間のあるときに随時回答した。目標は達成できたと考える。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	松原　仁	所　属	工学部環境建設工学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	最新の研究成果を取り入れた授業（セミナーを含む）を実施することで，学問の多様性や奥深さを認識・習得させる．また，オフィスアワーを通じて，学生の意見および相談事項を聴取し，教育の資質向上に資する．	0.30	Elsevier等の電子論文を利用した最新の研究成果を用いたセミナーを実施できた．
研究	0.40	科研費をベースにして，多孔質岩の破壊力学挙動や地すべり等の地盤防災に関わる計算力学的な研究を進める．同時に、知識交流を深めるために，他組織との共同研究を実施する．研究成果は国内外の学術誌や学術講演会等にて積極的に発表する．	0.40	計算力学・地盤防災分野において，国内外を問わず発表することができた（論文：7件（国際誌含む），国際会議：4件（招待講演含む），国内会議7件）。また，東洋大学計算力学センターの客員研究員としても活動することができた。
社会貢献	0.10	県内外の企業との連携を密にし，地域社会の発展と地域への人材送出に資する．また，研究成果の社会への還元方法についても模索する．	0.10	沖縄県内企業，国外機関，国際機関と連携を取りながら研究を実施し，人材の受け口としての路を築くことができた。
管理運営	0.10	安全衛生委員の一人として、特に，実験施設の整備等における安全衛生対策を積極的に推進する．	0.10	工学部安全衛生巡視，産業医巡視などに参加した。
進路指導	0.10	公務員や企業への就職，大学院への進学に関する最新情報を提供する．また，県内外の研究従事者との交流を深めることで，勤労観や職業観を育成する．	0.10	指導した全ての学生の進路を決定することができた（公務員就職：1名，県外企業：2名）
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	森下陽一	所　属	工学部環境建設工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	・TAを有効活用した演習科目の充実による構造力学の理解度の改善を図る。　・耐震補強、耐震診断などの研究成果の講義への反映を図る。	0.25	・前期の講義科目「建築構造力学Ⅲ」では、TAを有効活用して演習を充実させ、学生の理解度は改善された。また、後期の科目「地震と防災」においては、PPの有効活用で、学生の理解度は向上した。・その他の科目で「防災工学概論」「鉄筋コンクリート構造」については、現在進行中の耐震診断、耐震補強の研究成果を取り入れた講義を行い、学生の関心を得られたと思われる。
研究	0.30	・日本建築学会大会学術講演会および日本コンクリート工学協会研究発表会への論文投稿と発表を行う。・RC構造部材およびCB構造の耐震補強に関する研究を行う。	0.30	・現在進行中のRC構造部材の耐震補強に関する研究成果を、日本建築学会および日本コンクリート工学協会のそれぞれの発表会に投稿し、発表を行った。　・九州各県の耐震診断結果の取りまとめの作業は終了し、現在沖縄県で進行中の耐震診断結果を追加して取りまとめ中である。
社会貢献	0.10	・既存RC建物の耐震診断に関する審査を行う。 ・沖縄県の建築士審査会の委員長として、試験審査を行う。	0.10	・沖縄県の公共建築物15棟程度の耐震診断を行い、その耐震性能を判定した。また、その資料の取りまとめを行っている。・沖縄県の建築士審査会の委員長として、2級建築士、木造建築士の製図試験の審査を行った。
管理運営	0.30	・環境建設工学科の学科長として学科の事務取りまとめを行う。 ・施設整備に関わる総合評価審査への取り組みを行う。	0.30	・施設整備に関する総合評価審査の作業を、延べ4回にわたって行い、評価の判定を行った。　・環境建設工学科の学科長として、予算処理、学科会議の主催などの事務作業を行った。・本年中に、6件の教員人事を進めた。
進路指導	0.05	・卒業研究および大学院学生の指導教員として、修学指導、進路指導	0.05	・卒業研究および大学院学生の指導教員として、個別の修学指導、特に外国人留学生に対する修学指導などを行った。また、最終試験となる修士論文の発表会などの設定作業を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	仲座　栄三	所　属	工学部・環境建設工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	JABEEに則した授業を行うと共に、学生から高く評価される事業を目指す。	0.40	JABEEが求める基準を満たすように工夫した授業を行なった。また、学生アンケートによって各授業とも高い評価をうけた。
研究	0.30	基礎研究を中心に行うと共に、防災及び環境に係る研究の展開を目指す。	0.30	基礎研究及び津波災害研究を実施した。新たな数値計算手法の開発を行なった。成果は学生との共著論文として発表した。
社会貢献	0.10	基礎研究、防災や環境に係る研究を通じ、社会貢献を行う。	0.10	研究成果を基に、沖縄の防災計画に貢献すると共に、シンポジウム等を通じて社会貢献した。
管理運営	0.15	学長補佐の立場から適宜、関連事項の進展に提言と協力を行う。	0.15	学長補佐の立場から、学内防災計画を策定すると共に、大学全体のミッションの再定義に関する提言を行った。
進路指導	0.05	指導教員として学生の進路相談に応じると共に、 研究室の学生の就職のサポートにあたる。	0.05	４年次指導教員として全体の進学及び就職活動のサポートを行った。また、研究室の大学院生はじめ学生の就職サポートを行なった。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）						
名　前	原久夫		所　属	工学部	職　名	准教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果	
教育	0.45	修士学生及び卒業研究学生指導，確率及び統計，土木工学概論，測量学Ⅰ，土質工学実験A，土質力学Ⅰ及び演習，土木セミナー，土質力学特論，土質力学の講義を実施する。 JABEEプログラム教育委員会における事務処理を担当する。		0.45	すべての講義および大学院生３名の研究指導を実施した。JABEE認定のプログラムにおいて，教育プログラム改善WG，地盤分野会議，その他分野別会議を担当，実施した。老朽化した測量機器の更新に取り組，み測量実習内容を大幅に改善した。	
研究	0.40	圧密沈下解析法，赤土流出防止技術の開発，不飽和地盤内浸透流，地滑り防止を目的とした地盤内調査法の開発に関する研究を実施する。 地盤情報DBの防災および地盤環境への活用に関する地盤工学会研究委員会委員として，沖縄県における地盤情報の利活用に関する研究を行う。		0.40	圧密沈下解析法，赤土流出防止技術の開発，不飽和地盤内浸透流，不飽和砂のせん断特性に関する研究を実施した。これらの成果を土木学会，沖縄地盤工学研究発表会で発表し，2名（4件）院生が優秀講演者となった。 地盤工学会地盤情報DBの防災および地盤環境への活用に関する研究委員会委員として，沖縄県における地盤情報の利活用に関する研究を行った。	
社会貢献	0.05	沖縄県公共事業評価監視委員会委員長，沖縄総合事務局開発建設部建設コンサルタント業務審査委員会委員長，その他委員会委員(4)などの公共性の高い委員会に出席し，専門知識を社会に還元貢献する。 地盤工学会評議員として学界全体の運営を評議する。九州支部沖縄地区幹事および沖縄地盤工学研究会副会長として活動する。		0.05	左記の委員会活動をすべて実施した。さらに，沖総局入札監視委員会，沖総局事業評価監視委員長，磁気探査技士検討委員長，地盤工学会九州支部研究委員会委員，社会資本整備審議会専門委員，不発弾探査に関するWG，沖縄県赤土流出防止技術交流会座長として社会貢献した。	
管理運営	0.05	工学部予算配分委員，学士教育プログラム委員として工学部および環境建設工学科の改善に取り組む。		0.05	左記の委員会活動をすべて実施した。さらにURGCCプログラム代表者として取り組んだ。	
進路指導	0.05	環境建設工学科土木コース2年次学生の指導教員として，学生の修学		0.05	環境建設工学科土木コース教員（2年次指導教員）として，学生の修学，進学，就職指導を実施した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。	

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	渡嘉敷　直彦	所　属	工学部環境建設工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	・JABEE授業改善に基づく授業内容の改善 ・学習指導（オフィスタイム） ・研究内容の授業への反映	0.25	オフィスタイムにより，授業に関する学生の質問を受け付け，学習指導を行った. 研究で明らかにされた内容を授業で紹介し，できるだけ現場の状況を説明した.
研究	0.35	・学会誌への投稿．発表 ・学会での報告発表（国内，国際会議） ・外部資金の獲得 ・学会における研究発表会幹事・論文査読	0.40	・学会誌，国際会議への投稿を行った.（上半期国際会議出席・発表） ・岩盤力学国内シンポジウムを沖縄で開催し，副委員長を務め，運営にあたった. ・外部資金の獲得を行う研究・調査活動を実施した.（下半期に外部資金獲得）
社会貢献	0.20	・沖縄総合事務局・沖縄県各種委員会委員 ・新石垣空港建設に関わる地盤問題の技術指導 ・石造構造物・遺跡の保存に関わる工学的技術指導	0.20	・新石垣空港建設に関わる地盤問題である空洞対策工の安全性について，解析および計測の両面から技術指導を行った. ・沖縄県，市町村の石造文化財について，調査・助言を行った. ・公共性の高い各種委員会に出席し，専門知識を社会に還元貢献することに努めた.
管理運営	0.15	・学部代議員を務め，学科との調整を行う.	0.10	学部代議員を務め，議案の処理と学科への報告を行った.
進路指導	0.05	・卒業研究配属学生進路指導	0.05	卒業研究配属学生の進路指導を行った.
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

（別紙１）本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	入部　綱清	所　属	工学部	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	JABEEに沿った教育によって、学生から評価の高い授業を行う。	0.30	JABEEに沿った教育によって、学生から評価の高い授業を行った。
研究	0.40	環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行う。	0.40	環境・防災をテーマに数値計算を中心とした応用研究を行った。
社会貢献	0.10	環境・防災研究を通じて社会貢献に努める。	0.10	環境・防災研究を通じて社会貢献に努めた。
管理運営	0.10	工学部広報・図書委員として、工学部及び学科の広報に努める。	0.10	工学部広報・図書委員として、工学部及び学科の広報に努めた。
進路指導	0.10	指導教員として、学生の進路相談や就職のサポートを行う。	0.10	指導教員として、学生の進路相談や就職のサポートを行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。